



HAFA ADAI (ハッフア・アテイ - 先住チャモロ人の言語で「こんにちは(やあ元気?)」)

<http://www.jcguam.org/jsg/top/>

2010年10月1日(金)号

まずは
基本的事項の説明

グアム日本人学校
校長 中村 宏
73期(1975年3月卒)

【在外教育施設とは(文部科学省ホームページより一部抜粋)】

我が国の国際的諸活動の進展に伴い、多くの日本人がその子どもを海外に帯同しています。2009年4月15日現在、約6.1万人の義務教育段階の日本人の子どもが海外で生活しています。

また、海外に長期間在留した後帰国する子どもの数は2008年度間には、約1.2万人となっています。

我が国の主権の及ばない外国において、日本人の子どもが、日本国民にふさわしい教育を受けやすくするために、文部科学省と外務省では、憲法の定める教育の機会均等及び義務教育無償の精神に沿って、海外子女教育の振興のために様々な施策を講じている一環として、海外に教育施設を作っています。それが在外教育施設といわれるものです。

【日本人学校とは(文部科学省ホームページより一部抜粋)】

日本人学校は、国内の小学校又は中学校における教育と同等の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設であり、文部科学大臣から国内の小学校又は中学校の課程と同等の教育課程を有する旨の認定を受けています。

日本人学校は、一般に現地の日本人会等が設置主体となって設立され、その運営は、日本人会や進出企業の代表者、日本人学校校長、在外公館職員、保護者の代表者等からなる学校運営委員会によって行われています。

運営経費は、授業料等の保護者負担金、企業等の寄付金及び国の種々の援助で賄われています。

1956年にバンコク日本人学校(タイ)が設置されて以来、2010年4月15日現在では、世界51か国・地域に88校(休校中の1校を除く)の設置をみています。

日本人学校においては、国内の小学校又は中学校の課程と同等の教育が行われており、その教育課程は、原則的に国内の学習指導要領等の定めるところによります。主たる教材である教科書については、国内で使用されているものが海外の子どもに対しても無償で給与されており、それを使用しています。年間授業時数は、国内の取り扱いに準拠していますが、現地の自然・社会事情等により様々となっています。

【日本人学校の教員(文部科学省ホームページより一部抜粋)】

文部科学省は、毎年度国内の国公立の義務教育諸学校の教員の中から、各都道府県教育委員会等が選考して推薦する教員について選考を行い、適任者を決定し、これらの教員を対象に研修を行った上で実質的には3年の任期で各在外教育施設に派遣しています。

アメリカ合衆国に関しては、
今年から大変な事になりました。

大変だった
赴任

本年度のアメリカ合衆国内在外
教育施設への派遣者（以下「本年度
派遣者」）のほとんどは、従来発給されて
いたA2ビザ（政府関係者）の発給が突然に停
止され、その結果公用旅券の支給もないまま
に、ビザ無し状態の一般旅券で、4月1日
（教諭は6日）に「とりあえずの赴任」をしました。

赴任後、とにかく新年度の立ち上げをし、着任式・始業式・
入学式を無事終了して新学期を迎える事が出来ました。

しかし、5月上旬には、本年度派遣者のほとんどは一時帰国をしてBビザ
（短期商用観光）を取得すべくアメリカ合衆国大使館へ出向きました。
このため数日東京に滞在し、すぐに各赴任地へと再出発したのですが、
本校派遣者（4名の教員とその家族6名の計10名）全員が再入国の
際の入国審査で一時的に別室に足留めされ、1時間以上にわたって
事情聴取されるという事態に至りました。本年度派遣者の立場を証明す
る文科省や米国大使館発行の文書は持参していたのですが、入国管理側
も前例がないと見えて対応に困った末の処置であったようです。とりあえず
Bビザで1年間の滞在期間は認められて再入国は出来ました。

ビザに関する今後の対応については、一時帰国時に文科省から、本年度内にJビ
ザ（交換プログラムによる交流訪問者－交換留学生等用）取得をする旨説明があり、
7月には取得の見通しがついたとの知らせがありました。それ以降今に至るまで
この件に関して何の連絡もないままです。Jビザ取得が出来たとしても従来の
A2ビザや、それに伴う公用旅券の発給がなされるわけではなく、不安定要素を
残したままでの滞在となっています。さらに、すでに来年度派遣者の選考時期
に入っており、当該地域への新年度派遣者に対する対応も同時に必要に
なっている状況です。早い解決が望まれます。



グアム 紹介

グアムは、日本から南東に約2500km、飛行機で3時間と少々のところにある北マリアナ諸島の南部に位置する淡路島程度の島です。

海洋性亜熱帯気候で年間平均気温は26℃のいわゆる常夏の島です。雨季（6月～11月）と乾季（12月～5月）に大別でき、雨季には日に数回のスコールが来ます。

アメリカ合衆国の準州扱いで、行政はカリフォルニア州法が適用されています。スペイン、そしてアメリカ合衆国の統治を経て、太平洋戦争開戦直後に日本軍の占領下に入り、1944年7月21日の米軍上陸で壮絶な日米両軍の攻防戦が繰り広げられました。その結果、日本軍は「玉砕」、米軍占領後、米軍政を経て今日に至っています。グアムのジャングルで28年間潜伏生活を送った元日本兵の横井庄一さんは有名です。1970年代から急激に観光開発され、日本からの観光客が最も多いです。人口は約16万人で、先住チャモロ人のほかフィリピン人も多く住んでいます。日本人は約4000名ほど在住しています。在沖縄米海兵隊のグアム移転は当初予定より遅れるとの見通しが発表されましたが、いずれは移転して来るでしょう。それに伴い、インフラ整備等で日本企業が参入し、日本人の数が増える事も予想されます。



恋人岬



平和慰霊記念(祈念)公園



ココス島



ラッテストーン公園

（上4枚の写真はグアム政府観光局ホームページより）

グアム日本人学校

【歴史】

グアム日本人学校の前身としてのグアム補習授業校は、1975年に日本語補習校として開校しました。

1988年に、日本人会総会で日本人学校設立が決議され、日本人学校設立準備委員会が発足しました。1989年4月1日、日本政府が日本人学校として設立認可し、この時点で補習授業校と日本人学校に分離しました。そして、同月派遣教員が着任、開校式及び第1回入学式を挙行しました。また、1990年3月に日本人学校校舎竣工式が行われ、第2回入学式は新校舎で行われました。現在は、この校舎を補習授業校と一緒に使っています。

【学校の様子】

昨年、創立満20周年の節目を迎えました。現在、幼稚部17名、小学部51名、中学部15名が在籍しています。4月の全校遠足には小中学部が一緒に行くので、中学部のお兄さんお姉さんが、親切に小学部低学年の世話をしてくれる姿が見られます。

5月と9月には水泳教室が行われます。本校には、体育館とプールがありません。だから、水泳教室は地域のコンドミニウムのプールを借りて実施します。

6月に行われる運動会は、炎天下での練習を繰り返し、幼・小・中学部が協力してとても素晴らしい内容の演技を繰り広げます。

9月下旬には学習発表会があり、夏休み明けから準備や練習に取り組んだ成果を発表します。体育館がないので、ホテルのステージを借りて開催します。学校から離れている場所でリハーサルや本番をするので諸準備が大変ですが、先生と子どもたちが協力して創り上げます。

10月には修学旅行があり、小学部6年生と中学部2年生が、日本へ行きます。グアム生まれの子どももいるので、修学旅行はとても楽しい行事の一つです。

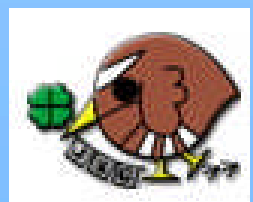
グアム日本人学校の子どもたちは、ふだんから英語を使い慣れている子が多いので、とても英語が得意です。休み時間などでも、友だち同士で英語での会話が飛び交う事がよくあります。小学部1年生から中学部3年生まで、週3時間の英語の授業があり、一生懸命勉強しています。

グアム日本人学校の様子はホームページ (<http://www.jcguam.org/jsj/top/>) にも掲載されていますのでご訪問下さい。



学習発表会 中学部演劇「権蔵太鼓」

グアム日本人
学校のマスコ
ット→
「ココバード」
です。



グアム日本人学校ロゴマーク